

# 感染性胃腸炎の流行が始まりました！

## ～ ノロウイルス等の感染性胃腸炎の発生動向～

ノロウイルスなどを原因とする感染性胃腸炎は秋から冬にかけて流行し、昨シーズンでは都内の高齢者施設等から134件の集団発生が報告されています。

東京都感染症発生動向調査及び集団感染の発生状況から、今冬のシーズンが開始されていたと考えられますので、今後に備えて感染予防などに十分に注意してください。

感染性胃腸炎は下痢やおう吐などが主な症状であり、予防には、手洗いが大切です。かかった場合には、脱水症状に注意して、早期に医療機関を受診してください。

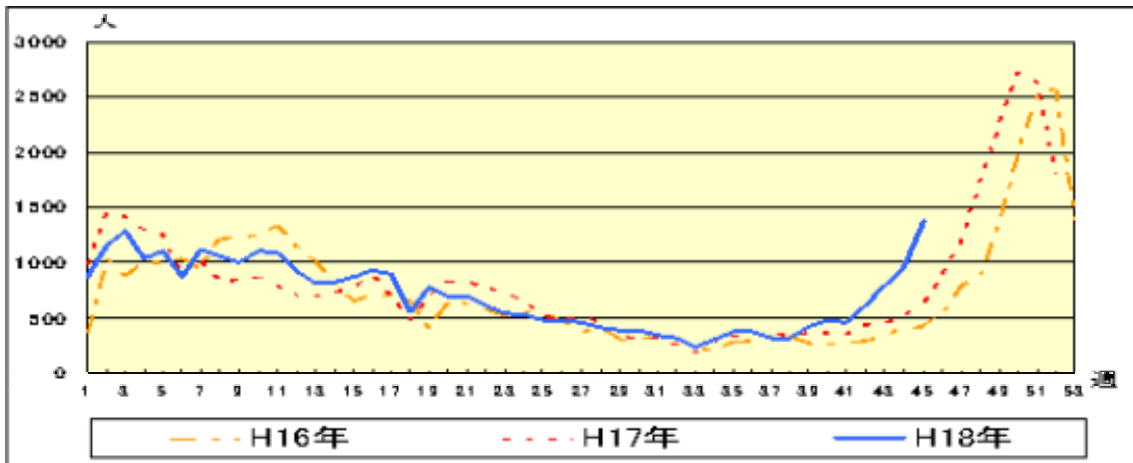
### < 発生状況 >

定点報告をみると、秋に入り昨年より2から3週早く流行の増加が報告

11月に入り、都内の施設において感染性胃腸炎の集団発生の事例が4件報告

11月から、都内の保育施設1か所と高齢者施設3か所において集団発生の事件が計4件発生しています。いずれも、初発患者が下痢・おう吐等で発症後に周囲へ感染拡大、30名以上が感染しています。また、検査結果からノロウイルスが検出されています。いずれの件も15日現在、重症者はおらず終息に向かっています。

### < 東京都における感染性胃腸炎の報告件数(142定点医療機関) >



データ：東京都感染症発生動向調査より <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>

上記データは、都内142医療機関から報告された件数である。

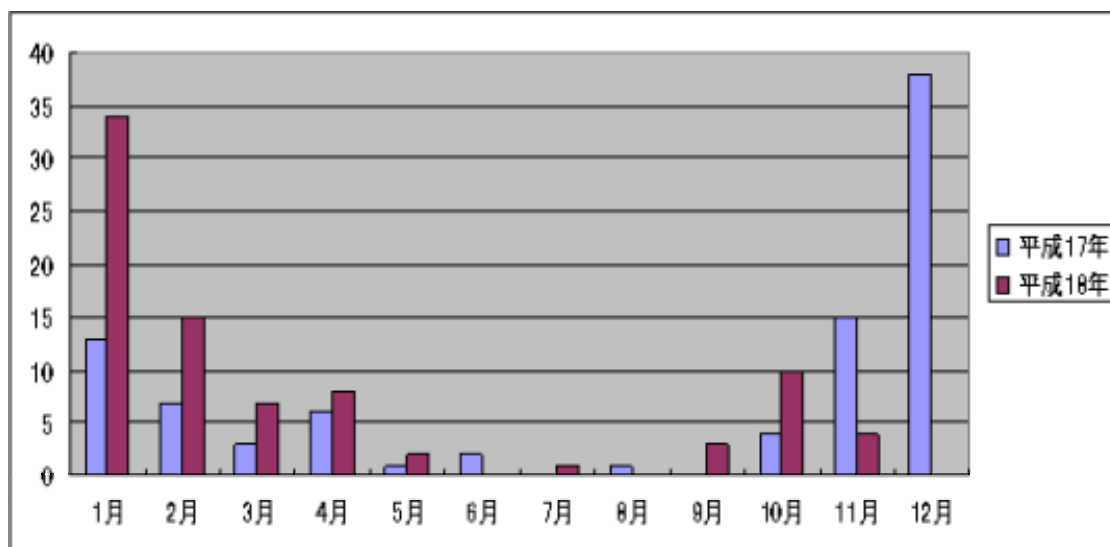
(感染性胃腸炎は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」において、指定医療機関(定点)からの報告を要する5類感染症に指定されている。)

問い合わせ先

福祉保健局健康安全室感染症対策課

電話 03 - 5320 - 4482

< 東京都都内における感染性胃腸炎の集団発生事例報告件数 >



上記データは都区保健所からの報告で、集団施設において同一施設で10人以上発生し、病原体が確定したものの件数である。

平成18年11月は15日までの件数

ノロウイルスに関し、施設に対する東京都の主な対応

シーズン開始時に都民へ注意喚起

施設の実態を踏まえた保健所による指導、助言

「社会福祉施設等におけるノロウイルス対応標準マニュアル(第3版)改訂版」配布

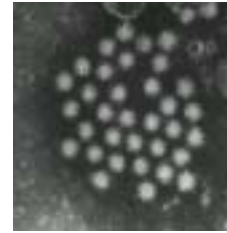
「社会福祉施設職員のための感染症対策Q & A」配布

高齢者施設等にまん延防止予防策等を改めて周知

# 冬に流行する感染性胃腸炎に御注意

## おなかにくる冬の風邪

冬の感染症といえば、インフルエンザと思われがちですが、小型球形ウイルスやロタウイルスなどによる感染性胃腸炎も冬季に流行します。吐き気、おう吐、下痢、発熱が主症状です。



人から人へ感染する場合と食品から感染する場合があります。

人から人への感染では、ウイルスが手などに付いて口に入る場合と吐物の飛散からうつる場合があります。

## ノロウイルス

ノロウイルスとは人の小腸粘膜で増殖するウイルスで、従来は小型球形ウイルスと呼ばれていました。主に11月から3月にかけて胃腸炎を起こし、またカキ(牡蠣)などから食中毒を起こします。60・30分程度の加熱では病原性を失いません。

## 感染予防のポイント

感染予防の最も有効な対策は手洗いです。トイレを使用した後、調理の前、食事の前には必ず手洗いをしましょう。石けんと流水で30秒よく手を洗います。

部屋やトイレで吐いた場合は、部屋の換気を十分に行いながら、吐物をふき取り、ふき取ったあとをアルコールや熱湯、塩素系殺菌消毒剤などで消毒します。直接触れた時は、石けんで十分に手を洗いましょう。

## 食中毒予防のポイント

食品を介した感染を防止するためには、手洗いを十分に行うこと、食品を十分に加熱することが効果的です。ほかにも、手指や調理器具などの洗浄・消毒を厳守する生鮮食品(野菜、果物など)は十分に洗浄することなどに注意しましょう。

## 感染性胃腸炎にかかったら

下痢やおう吐が続く間は、脱水症状に注意してください。子どもの場合には、ぐったりする、唇が乾燥する、尿が濃くなるなどの症状が現れた場合はすぐに病院を受診しましょう。

吐き始めた3~4時間は何を与えても吐いてしまいます。しばらくすると吐き気がおさまってくるので、安静にしてりんご果汁、麦茶などを少しずつ飲ませましょう。